

オーディオ実験室収載

サブシステムの再構成(11) (HP 収載)

1. はじめに

スピーカーアキュライザーの追加導入を見据えて、サブシステムの入れ替えを行うことにしました。

2. サブシステムの再構成の内容

現在の配置は次の写真のとおりです。



上記を次の写真のように設置替えします。

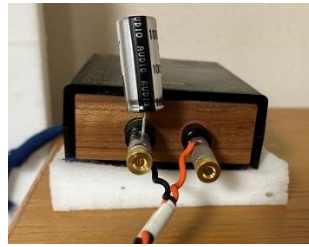


TANNOY
Autograph MINI

Goodman AXIOM 80



TELEFUNKEN L-61



ムジカライザーML-6

3. サブシステムの再構成の試聴結果

今回新たに入れ替えをした Goodman AXIOM 80 でテストを行いました。駆動アンプは PX25 シングルアンプで、ムジカライザーML-6 を経由させます。

駆動アンプは PX25 を使用し、ベルデンのケーブルで、バナナプラグ経由のムジカライザーに配線し、ムジカライザーからバナナプラグ経由で AXIOM 80 に仮配線します。

なお、ムジカライザーのマイナス側の入力のバナナプラグには、10000 μ F の電解コンデンサーを接続するとともにバナナプラグに電磁波吸収テープ NRF-005T を巻きます。

試聴音源は下記のとおりです。

アナログ盤

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

Philips

J.S.Bach ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集

アルトゥール・グリュミヨー(ヴァイオリン)

クリスティーヌ・ジャコッティ(チェンバロ)

STAGE+

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

シュロモ・ミンツ(ヴァイオリン)

バッハ Goldberg 変奏曲

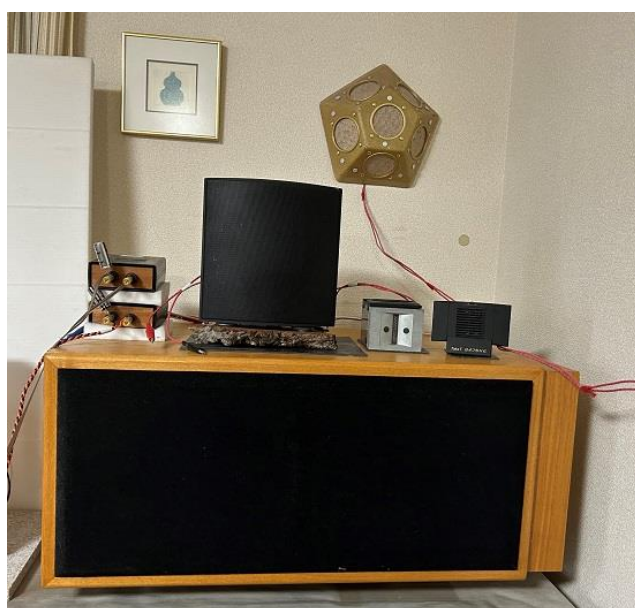
ラン・ラン(ピアノ)

シューベルト ピアノ 5 重奏曲「鱒」

リサ・パテイアシュブビリ(ヴァイオリン)他

ミルシュテインのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、予想外に

粗さを感じさせず、ボウイングの細かい様子が把握できます。
バッハのヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集は、再生が難しい盤ですが、ヴァイオリンの粗さも抑えられ、チェンバロの繊細な表現も評価できます。
ミンツのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、AXIOM80 特有の浸透性のあるヴァイオリンの音色がでていますし、ミルシュテインとの演奏スタイルの違いもよく分かります。
バッハの Goldberg 変奏曲は、打鍵の美しさと余韻がよく出ていますが、左手の最低域までは無理があります。
シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」では、弦の質感やピアノの響きは十分に楽しめますが、コントラバスの量感の表現には 3W のシングルアンプの駆動と 20cm という口径から無理があります。
AXIOM80 にありがちな暴れは、ムジカライザーと電解コンデンサーであまり気にならないところまで抑えられ、ムジカライザーとの相性の良さを再認識しました。
最終的に、JBL4350A のスーパーツイーターの設置とミニシステムの設置を行った結果のレイアウトは下掲の写真のようになりました。



4. まとめ

サブシステムの入替えが完了しました。当面ムジカライザーML-6を経由した条件で試聴していきますが、スピーカーアキュライザーの追加導入も視野に入れていきます。

以上

